

第1章 政治理念と政治エリート(要約)

中川 雅彦

本章は、金正日から金正恩への権力後継過程において、移譲される対象である政治理念とそれを実現するための組織に関して、その内容を明らかにしようとするものである。

金正日時代において構築された政治理念は先軍政治論であり、の内容は軍事力の強化をほかのすべての事柄に優先させるという内容である。そして、「先軍政治」とは、金日成の「先軍革命領導」を引き継ぐものであり、人民を金正日の政治思想に一元化すること、人民軍を中心とした軍事力を強化すること、経済各部門で生産を正常化して人民生活を安定させることによって「強盛大国」を実現する手段としての建設を進めるための政治方式であるとされた。憲法に「先軍思想」、党規約に「先軍革命」を書き込まれたことは、この先軍政治論を次世代の指導者に引き継がせることが意識されたものであった。また、先軍政治論には科学技術が「強盛大国建設の推進力」として位置付けられており、現在実施されている科学技術発展5カ年計画(第3次)を含む2022年までの「科学技術発展戦略」は金正恩に引き継がれることになる。

2010年9月28日に開催された党代表者会は、党の最高機関の運営を正常化して、将来的に正規の手続きを経て金正恩を最高指導者のポストに選出させるための準備をするものであった。同日の党中央委員会全員会議で金正日の実妹である金慶喜が政治局委員になったこと、張成沢が政治局候補委員になったことは、今後、この2人が金正恩への権力移譲で重要な役割を担うことになるものと予想される。また、金正恩は他に役職を持たずに党中央軍事委員会副委員長に就任した。今後しばらくの間、金正恩が党中央軍事委員会の指導下にある人民軍、国家安全保衛部、党機械工業部に影響力を拡大していくことになる。